西伊豆町版
【地域の未来予測】

2024年4月

西伊豆町

西伊豆町版「地域の未来予測」とは

◆現在、我が国は人口減少・超高齢化社会が到来しています。今後、人口構造は大きく変容し、私たちの生活を支える様々なサービスの持続性に影響を与えることが想定されます。生産年齢人口の減少による人手不足が深刻化すれば、日常生活や地域経済に必要な人材を確保できなくなるかもしれません。また、高度経済成長期に集中的に整備されたインフラが老朽化し、管理・更新が求められるインフラが増加する一方、支える人材が減少するギャップにより、今後、多様な分野において課題が顕在化することが見込まれます。

地域における変化・課題の現れ方を見通し、資源制約の下で何が可能なのか、どのような未来を実現したいのかの議論を重ね、ビジョンを共有していくことが重要であること。その上で、その未来像を実現するため、未来像から逆算し、どのようにして必要な経営資源を確保し、とるべき方策の優先順位をつけていくのか、長期的な視点で必要な対応を選択していくことが重要です。

（総務省：地域の未来予測に関する検討ワーキンググループ報告書より抜粋）

◆ 町では、後期総合計画（2025～2030年）を策定するための材料として、西伊豆町における2050年までの各種推計を、西伊豆町版「地域の未来予測」として整理しました。

◆ 西伊豆町が、将来に向け持続可能な町となるために、現状の課題および将来想定される変化・課題を見据えて、取り組むべき政策・施策の方向性を検討します。

現状と課題 → 地域の未来予測作成 → 総合計画策定

推計した分野の考え方について

◆ 推計対象は、総務省「地域の未来予測に関する検討ワーキンググループ報告書」を参考に、人口の減少や高齢化等の人口構造の変化を基礎とした長期的推計が可能である分野を対象としました。

◆ 人口や人口構造の変化に要因する変化以外の影響が大きく、関連する長期的・客観的な見通しのデータを提示することが困難な分野（経済、財政、観光等）については推計・考慮していません。

（基本的な考え方は、総務省「地域の未来予測に関するワーキンググループ報告書」（令和3年3月）に準拠しています。）

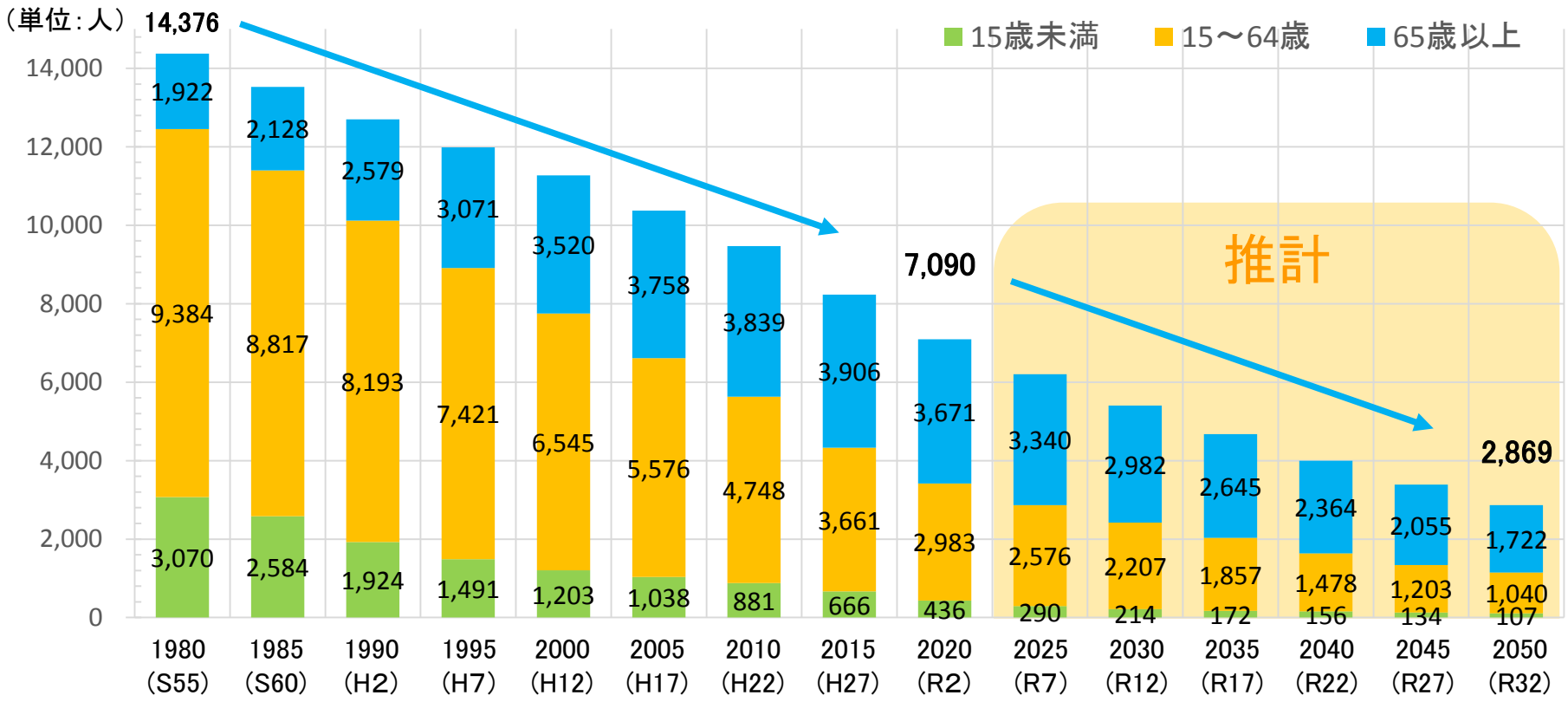
分野	No.	指標
人口	1	将来推計人口
	2	将来推計人口（年齢構造の割合）
	3	人口ピラミッド
	4	年少人口（0～14歳）
	5	若年男女人口（20～39歳）
	6	高齢化率（65歳以上）
	7	75歳以上・85歳以上人口
	8	地域別人口（人口密度）

分野	No.	指標
医療	9	医療需要・介護需要
消防・防災	10	避難行動要支援者数
	11	救急搬送人員
衛生	12	有収水量
	13	ごみ排出量
施設インフラ	14	公共施設等の建物数
	15	橋りょうの老朽化割合

1 将来推計人口

出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

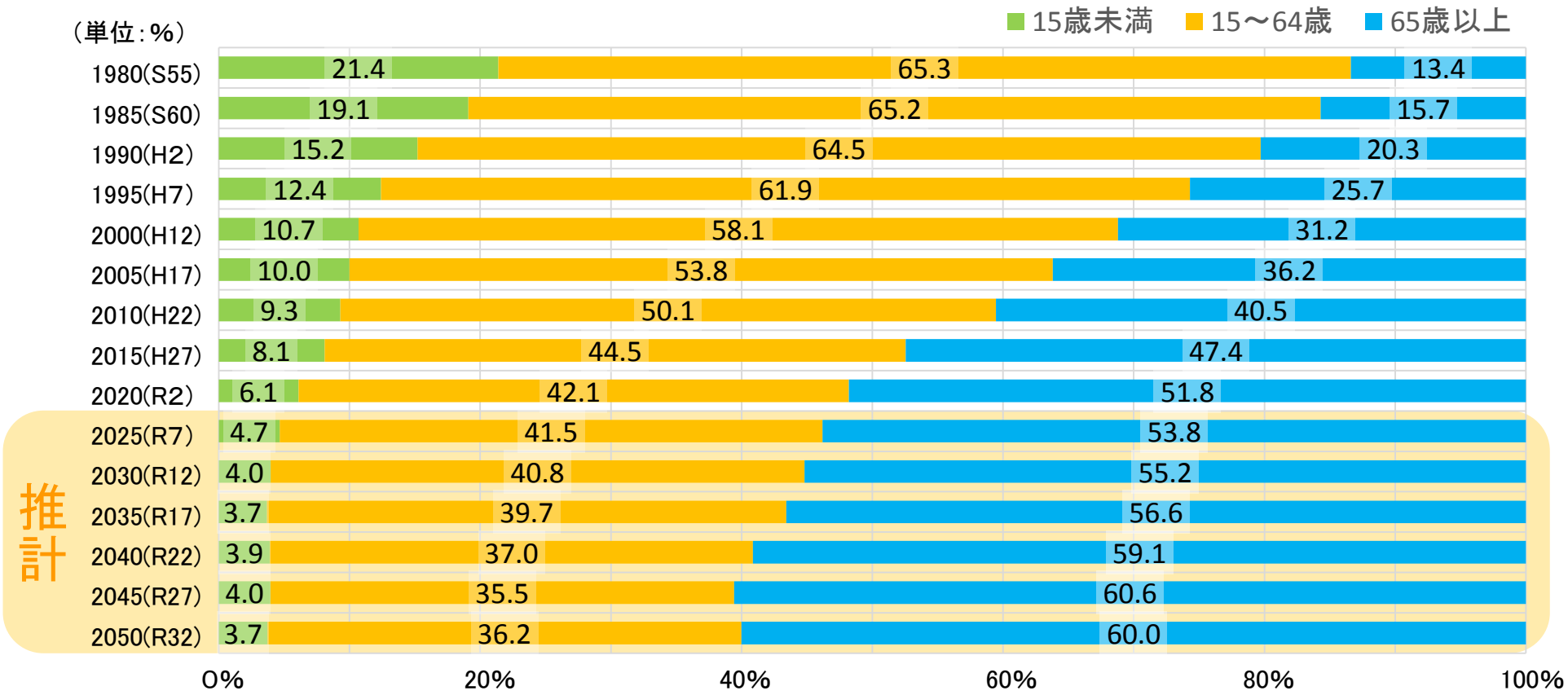
推計結果の概要	・西伊豆町の人口は年々減少する。 ・生産年齢人口（15～64歳）と高齢者人口（65歳以上）の人口構造（人口のバランス）が大きく変化する。
推定される変化・課題	・生産年齢人口の減少により、労働力不足が懸念される。 ・人口構造の変化に伴い、多様な分野における課題の顕著化が想定される。



2 将来推計人口（年齢構造の割合）

出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

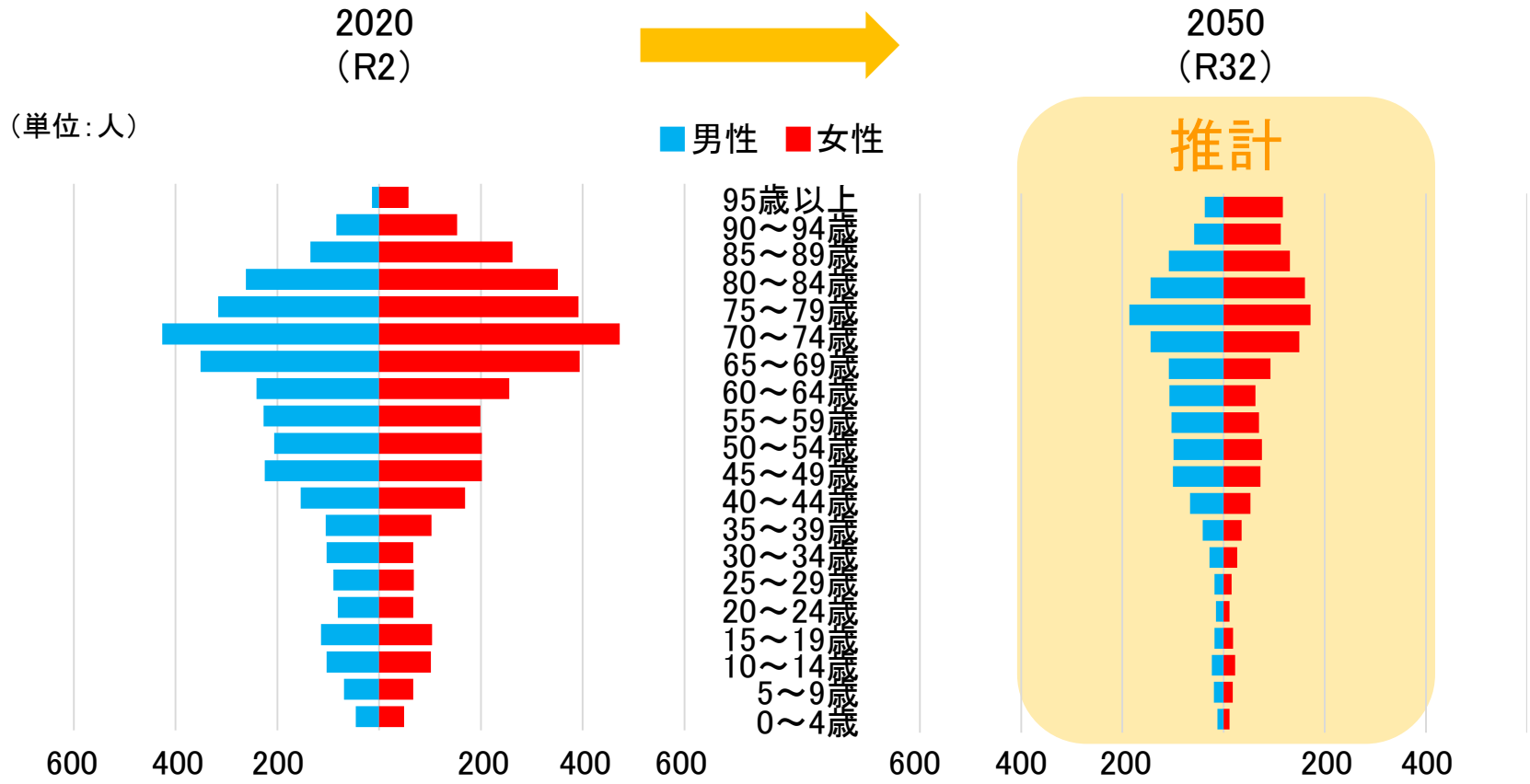
推計結果の概要	・生産年齢人口（15～64歳）と高齢者人口（65歳以上）の人口構造（人口のバランス）が大きく変化する。
推定される変化・課題	・生産年齢人口の減少により、労働力不足が懸念される。 ・人口構造の変化に伴い、多様な分野における課題の顕著化が想定される。



3 人口ピラミッド

出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

推計結果の概要	・第2次ベビーブーム世代（1971年～1974年生まれ）が65歳以上となり、構造的には高齢者が多く、年齢が低くなるにつれて減少傾向となる。
推定される変化・課題	・人口構造の変化に伴い、多様な分野における課題の顕著化が想定される。

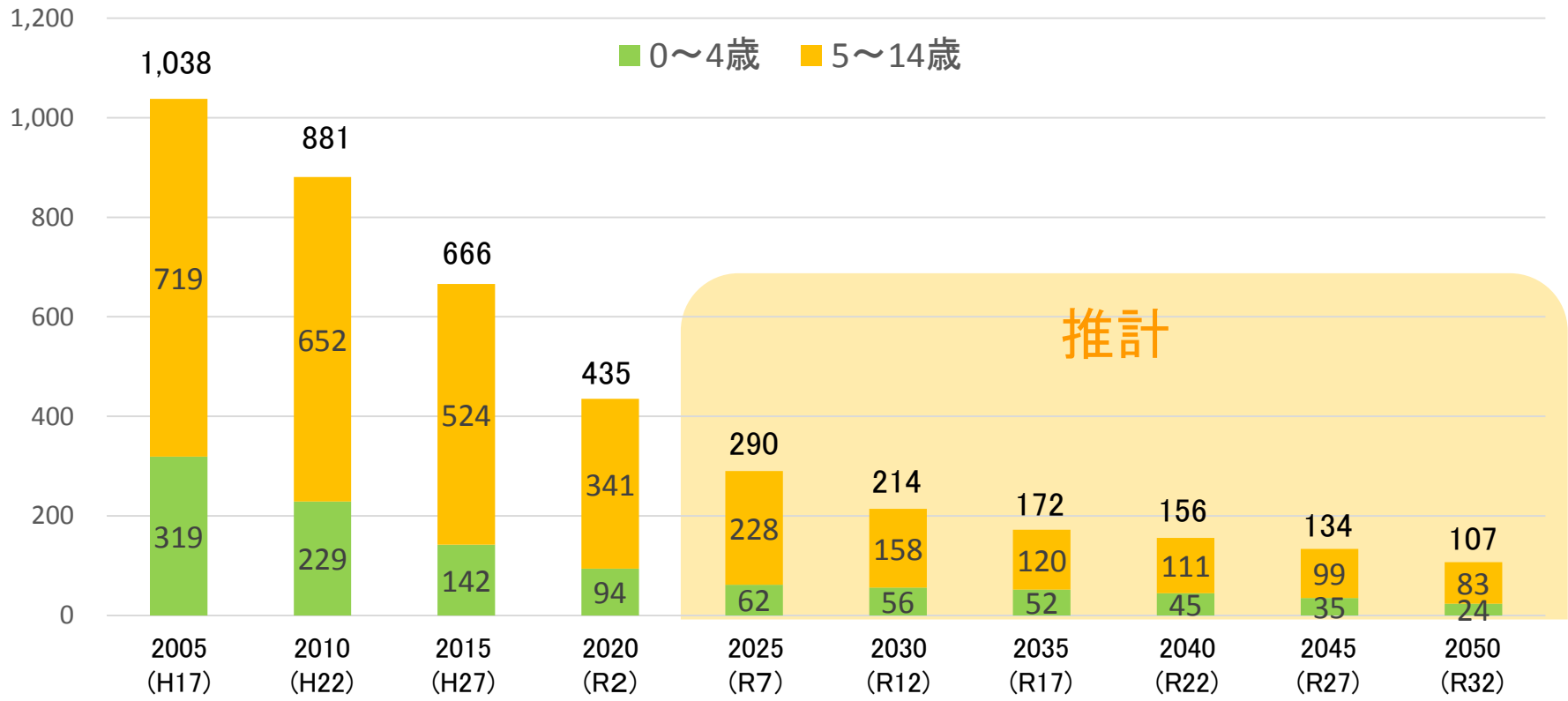


4 年少人口（0～14歳）推移

出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

推計結果の概要	・0～4歳（幼年期）、5～14歳（少年期）ともに年々減少する。
推定される変化・課題	・認定こども園や小中学校において、余裕教室が発生し、教育組織体制の変化が想定される。

（単位：人）

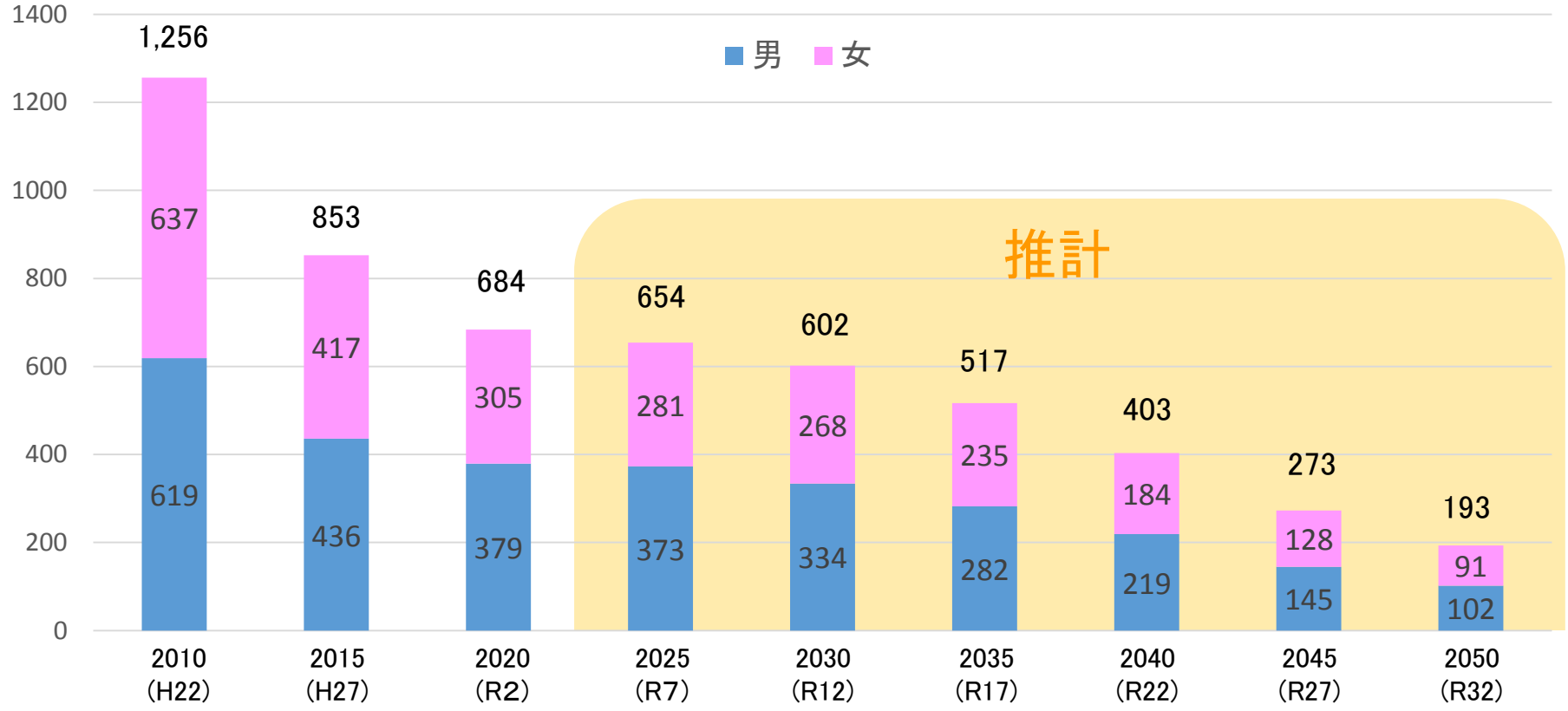


5 若年男女人口（20～39歳）推移

出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

推計結果の概要	・男女ともに年々減少する。 ・2015年以降女性よりも男性が若干多く、将来的にもこの傾向は変わらない見込み。
推定される変化・課題	・出生数と密接に関連する若年女性の減少により、総人口の減少が懸念される。

（単位：人）

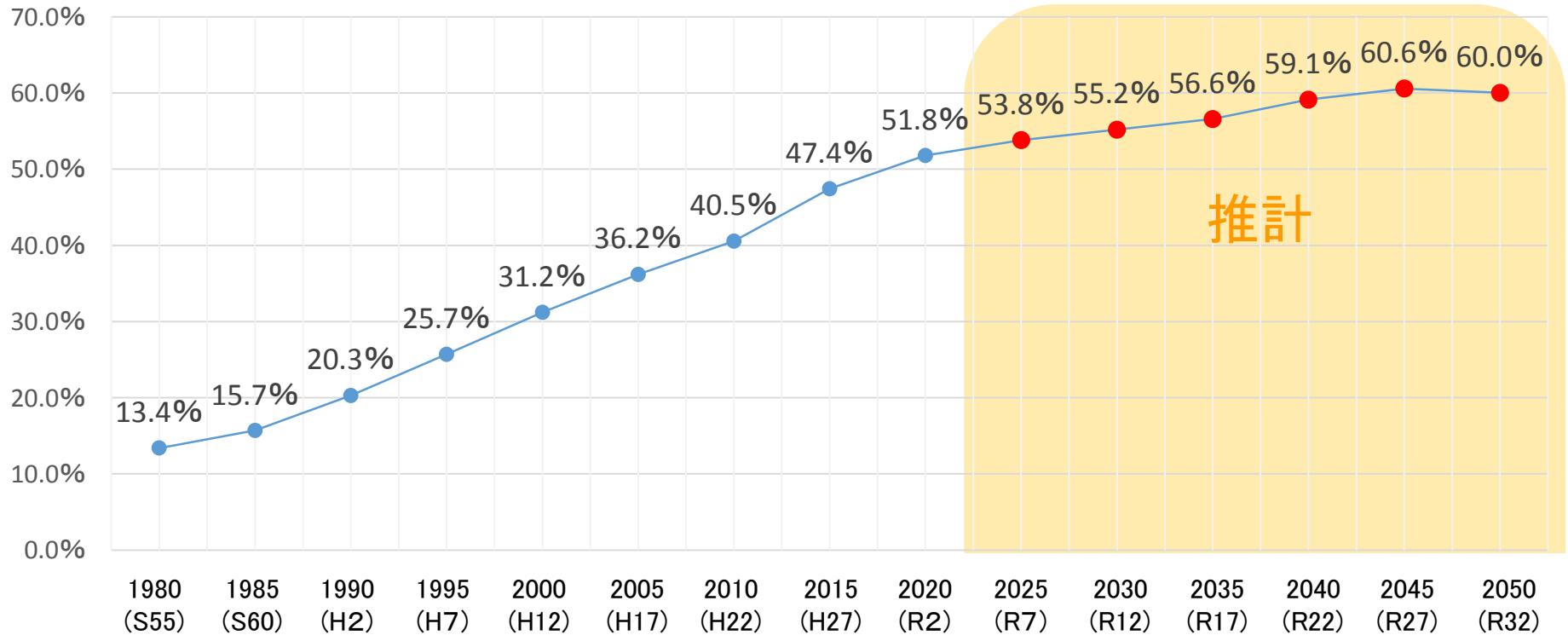


6 高齢化率（65歳以上）

出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

推計結果の概要	・高齢化率増加傾向にあり、2045年には60%を超える。
推定される変化・課題	・医療や介護、移動手段等の高齢者向けサービスの需要が増大する。 ・高齢化に関連した課題が顕著化することが想定される。

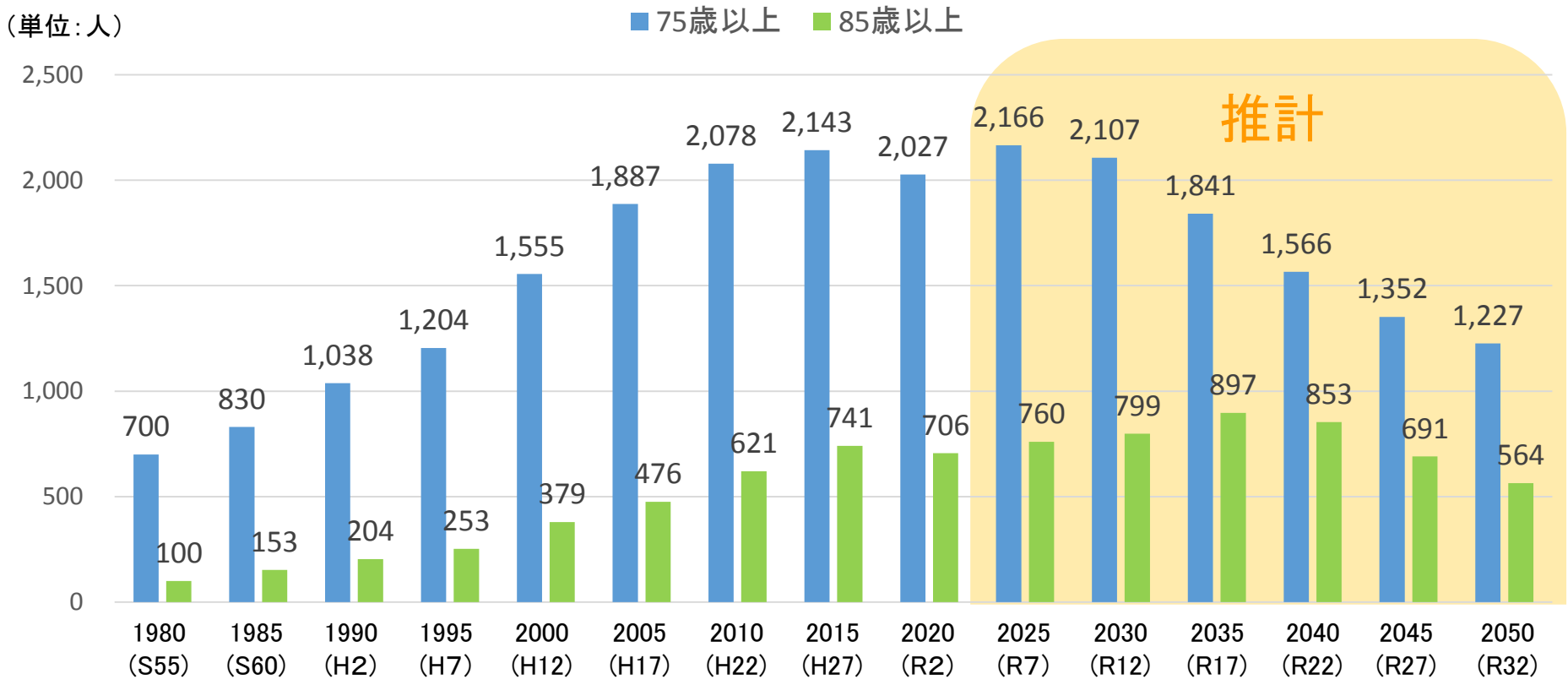
※高齢化率：総人口に占める65歳以上の割合



7 75歳以上・85歳以上人口

出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

推計結果の概要	・75歳以上の人口は、2025年頃をピークに減少する。 ・85歳以上は、2035年頃をピークに減少する。
推定される変化・課題	・高齢者向けサービスにおいて、人材の需要と供給のギャップが拡大するおそれがある。



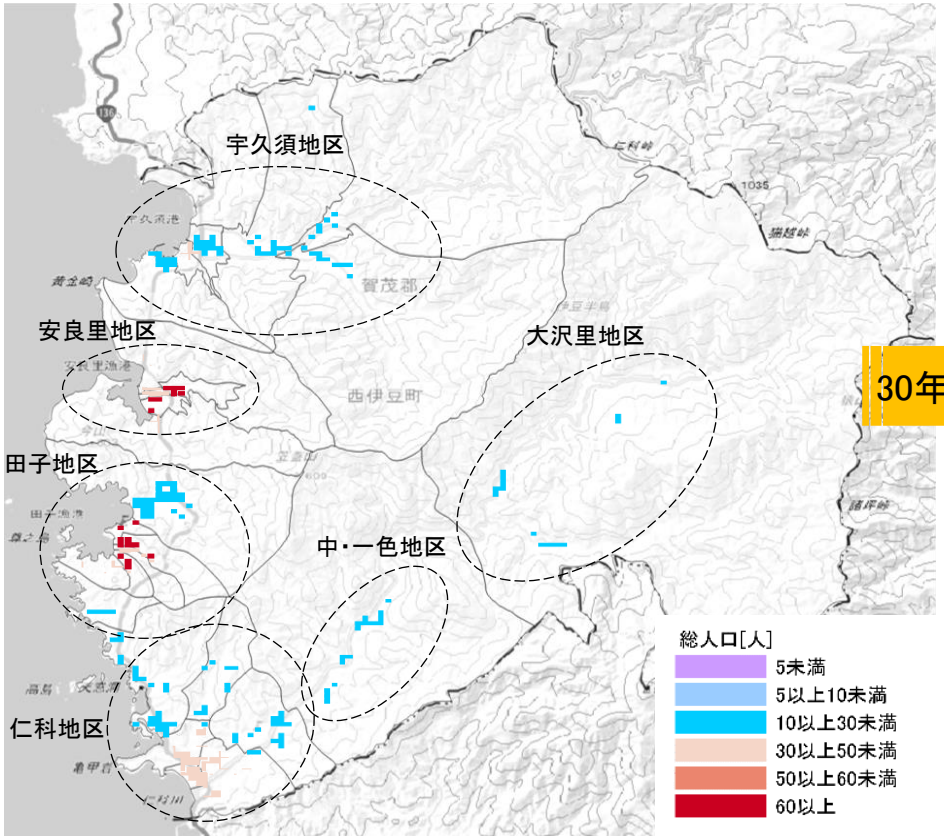
8 地域別人口（人口密度）

出典：「将来人口・世帯予測ツールV2」（国土交通省国土技術政策総合研究所）

注：2045 年まで5年ごとの100m メッシュ別、町丁・字別人口について、国勢調査人口をベースとして、コーホート要因法を用いた推計結果です。

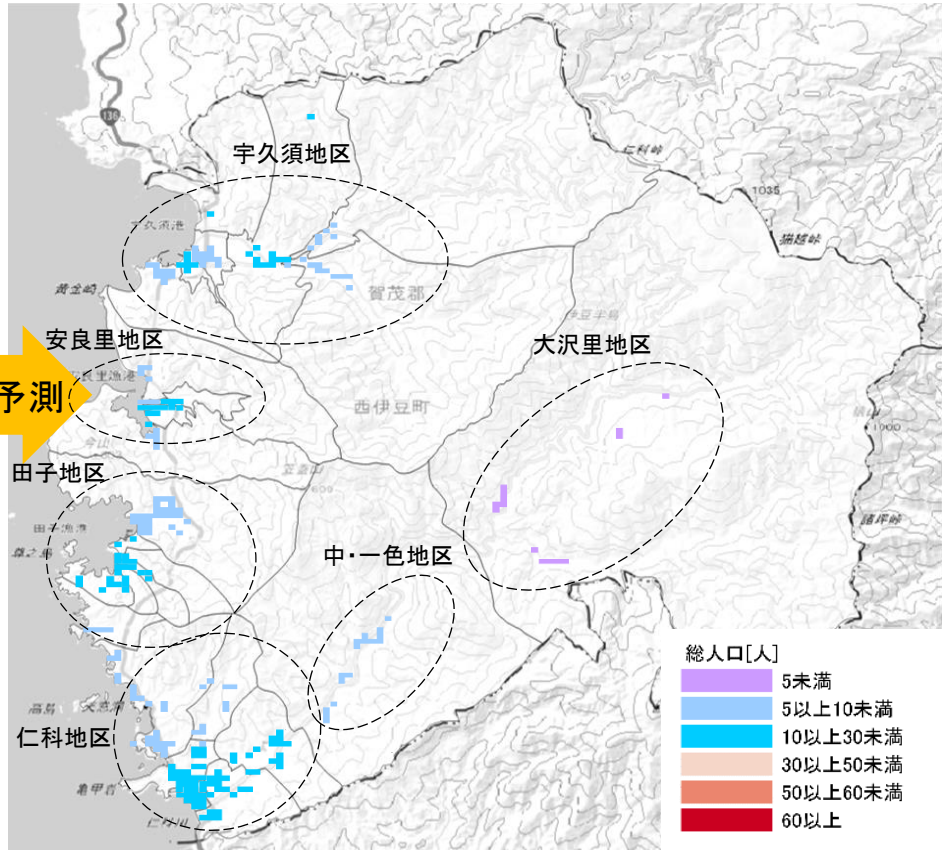
推計結果の概要	・人口減少に伴い、各地区の人口密度も減少する。
推定される変化・課題	・各地区での自治会組織による活動の縮小などのおそれがある。

平成27年度（2015）



30年後予測

令和27年度（2045）予測

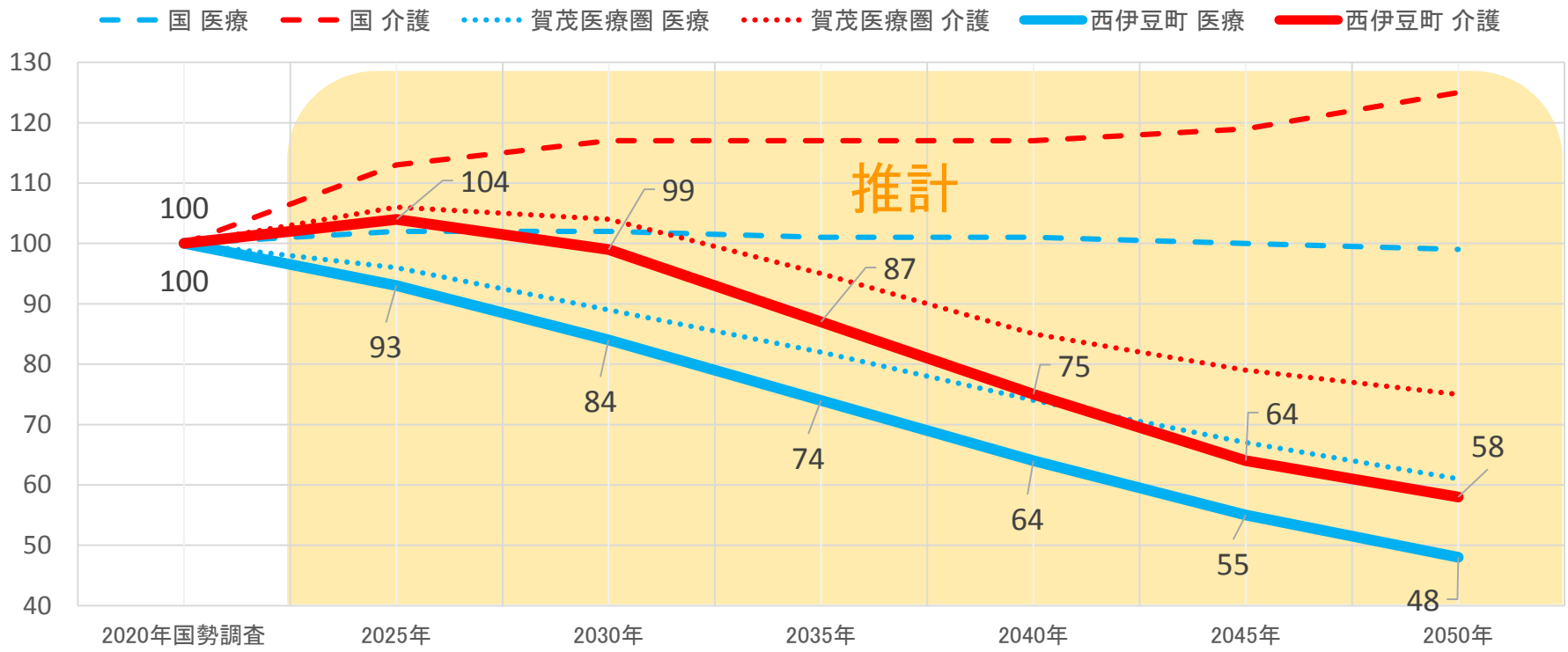


9 医療需要・介護需要（賀茂医療圏）

出典：日本医師会　地域医療情報システム

推計結果の概要	・医療需要は減少に転じる。 ・介護需要は2025年まで増加したのち、減少に転じる。
推定される変化・課題	・医療、介護需要とも人口の減少に伴い減少していくが、生産年齢人口とのバランスを注視する必要がある。

（単位：2020年国勢調査の需要を100とした時の値）



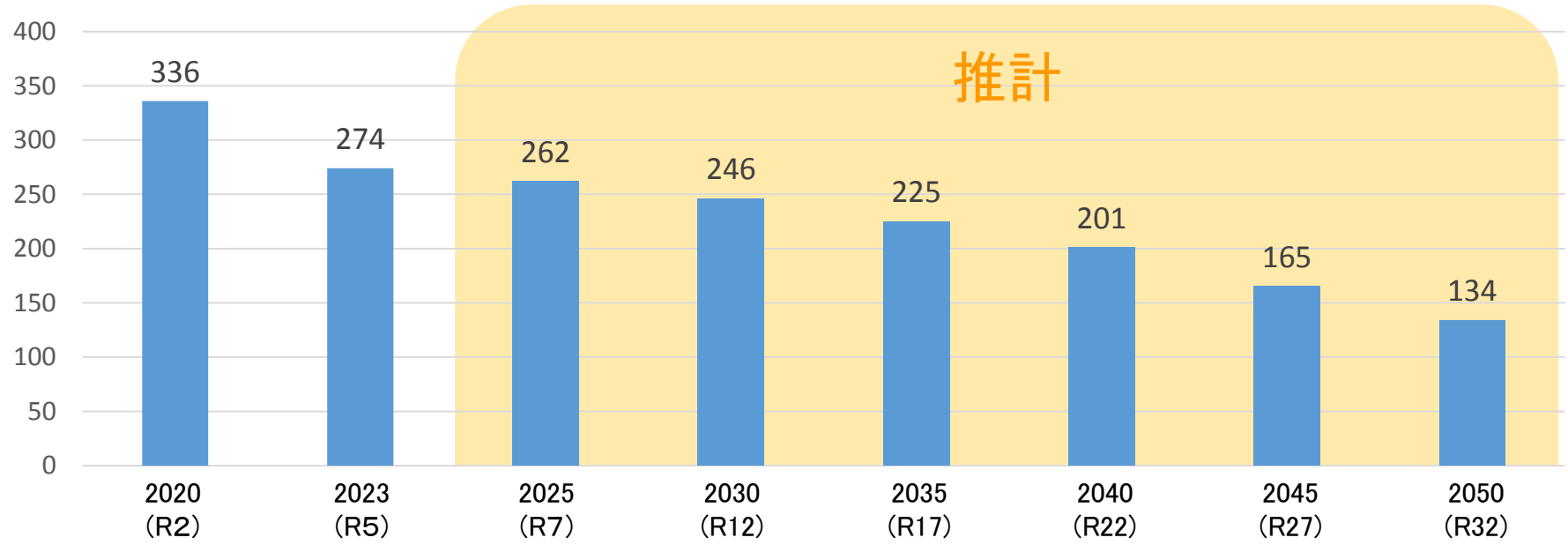
10 避難行動要支援者数

出典：西伊豆町作成

推計結果の概要	・人口減少に伴い、避難行動要支援者数は減少する。
推定される変化・課題	・災害時、避難を支援する人手不足が想定される。

〇避難行動要支援者・・・「要配慮者のうち、災害が発生し、又は災害が発生するおそれがある場合に自ら避難することが困難な者であって、その円滑かつ迅速な避難の確保を図るため特に支援を要するもの」（災害対策基本法第49条の10第1項）で、そのうち要介護者（要介護3以上）や身体障がい者1・2級、療育手帳Aなど

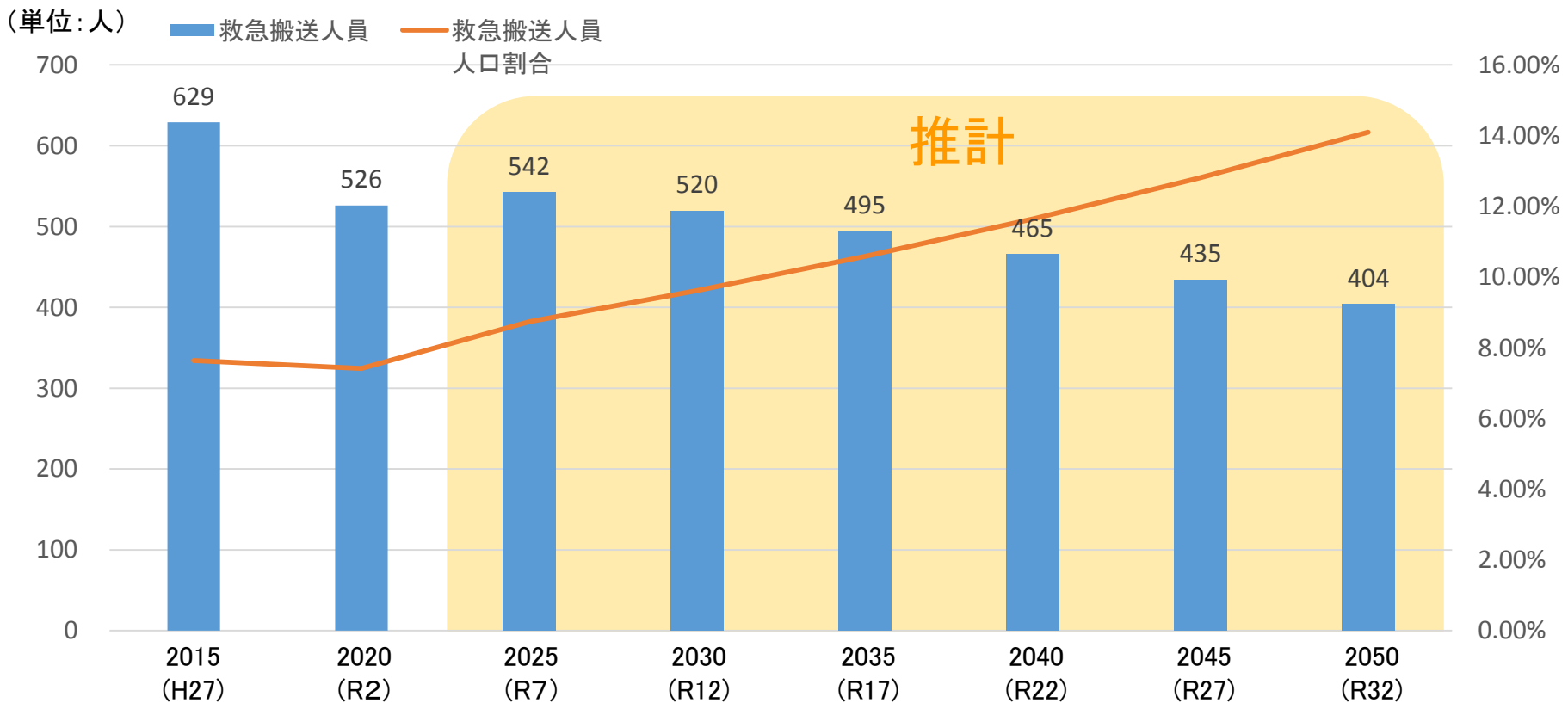
（単位：人）



11 救急搬送人員

出典：西伊豆町作成

推計結果の概要	・人口減少に伴い、救急搬送人員は減少するものの、高齢者の増加に伴い、人口に対する比率は増加する。
推定される変化・課題	・救急搬送人員は大幅には減少しないため、人材の需要と供給のギャップが拡大するおそれがある。

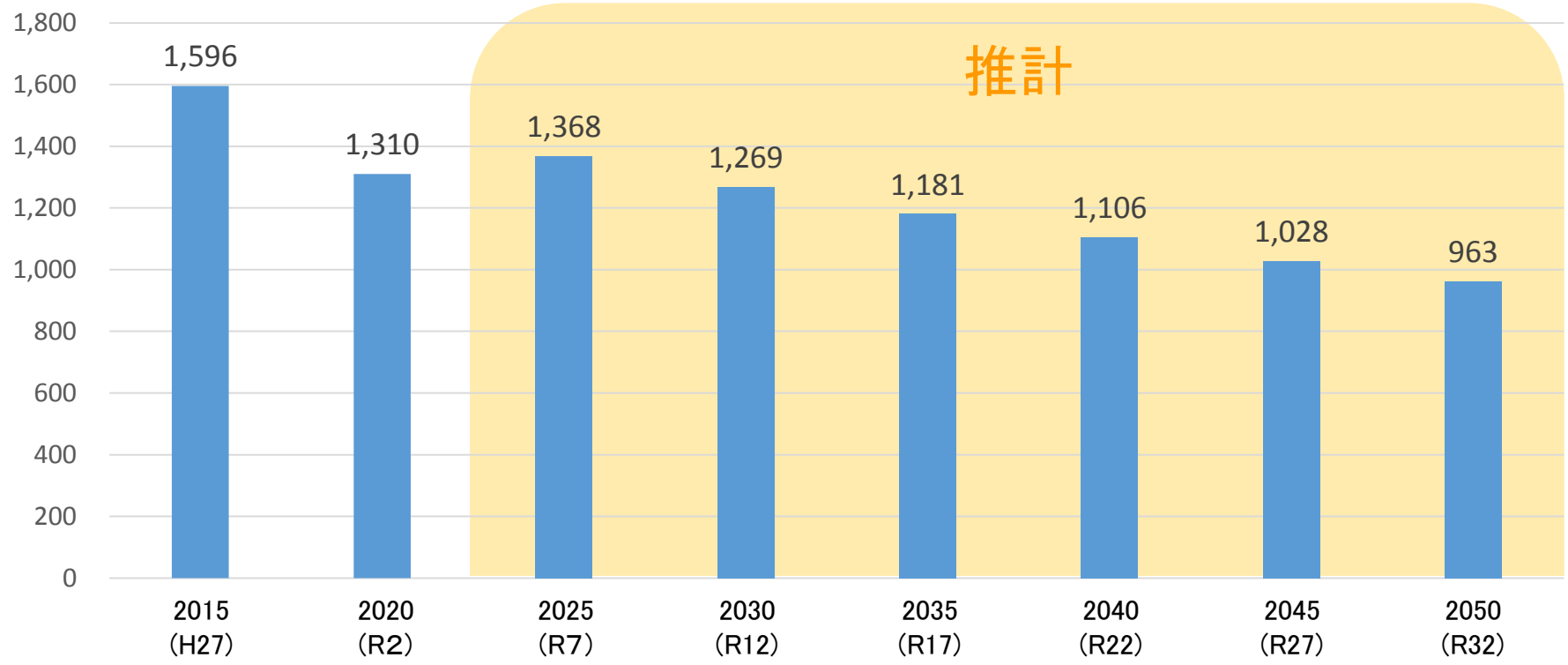


12 有収水量（生活用水）

出典：西伊豆町作成

推計結果の概要	・人口減少などによって水道水の需要は減少し、生活用水として使用される有収水量（水道料金徴収の対象となる水量）は2050年にかけて減少する。
推定される変化・課題	・水道料金の収入が減少し、水道事業の経営への影響が懸念される。 ・水道施設の老朽化などで、メンテナンスコストが過大となることが懸念される。

（単位：千m3）

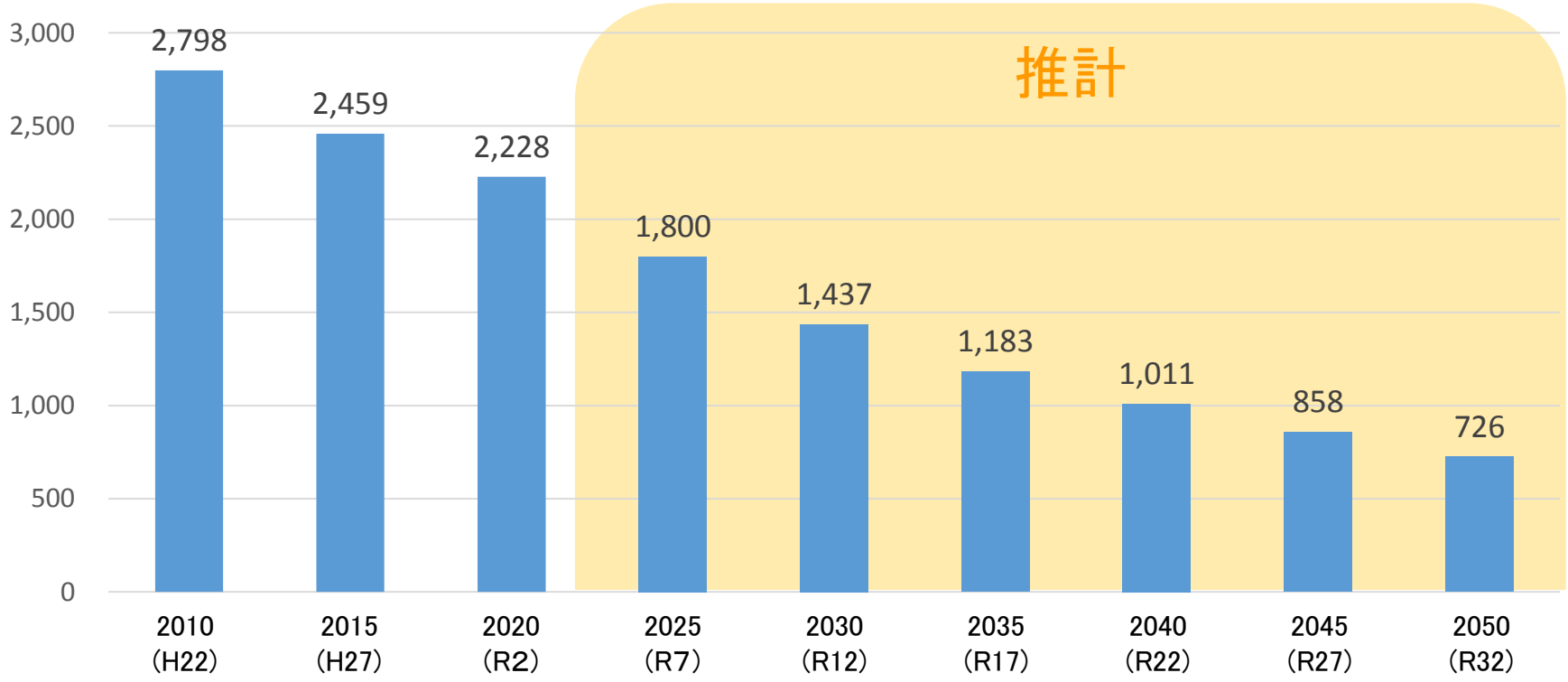


13 ごみ排出量（家庭系可燃ごみ）

出典：西伊豆町作成

推計結果の概要	・人口減少によって、家庭系ごみの排出量は2050年にかけて年々減少する。
推定される変化・課題	・人口減少及び人口密度の低下により、ごみ収集効率が低下するおそれがある。

（単位：t）



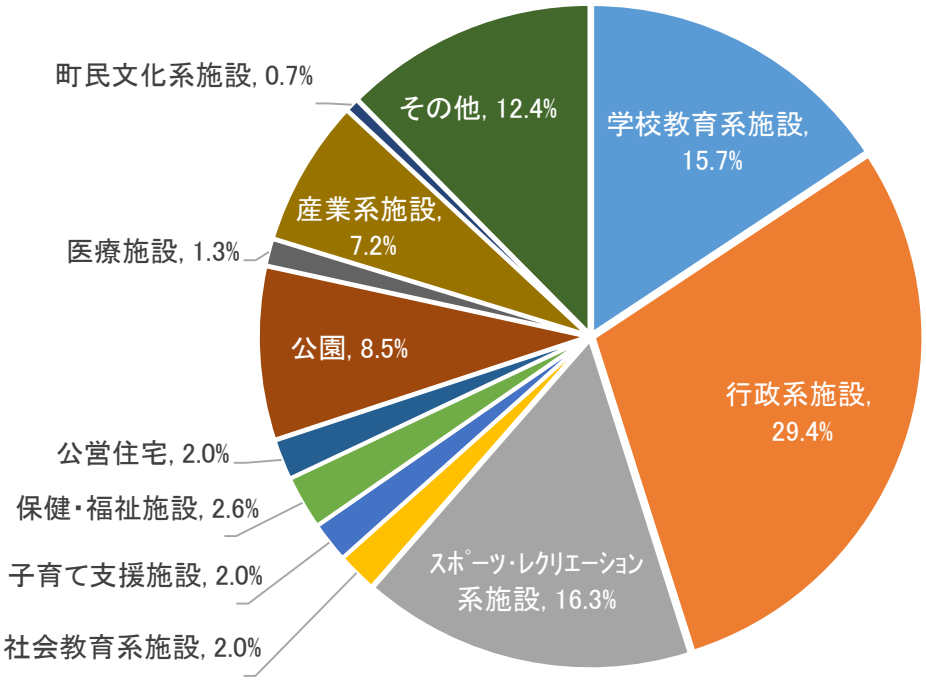
14 公共施設等の建物数

出典：西伊豆町作成

概要	・第二次ベビーブーム世代の昭和50年頃から昭和60年頃までに盛んに建設された公共施設等が今後、更新時期（築後40年）を迎える。
推定される変化・課題	・人口減少、財政状況等の変化により、施設の維持・修繕費用不足が懸念される。 ・人口構造の変化に伴い、需要に見合った施設規模での更新が必要。

施設類型	施設数	建物数		延床面積		平均築年数
			構成比	（㎡）	構成比	
学校教育系施設	7	24	15.7%	18,970	36.7%	36
行政系施設	37	45	29.4%	13,994	27.1%	31
ｽﾎﾟｰﾂ・ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ系施設	12	25	16.3%	6,091	11.8%	29
社会教育系施設	2	3	2.0%	3,422	6.6%	38
子育て支援施設	2	3	2.0%	2,126	4.1%	19
保健・福祉施設	4	4	2.6%	2,445	4.7%	21
公営住宅	3	3	2.0%	1,426	2.8%	31
公園	3	13	8.5%	1,112	2.2%	24
医療施設	2	2	1.3%	504	1.0%	4
産業系施設	6	11	7.2%	872	1.7%	17
町民文化系施設	1	1	0.7%	102	0.2%	23
その他	19	19	12.4%	569	1.1%	26
合計	98	153		51,633		

建物数 構成比



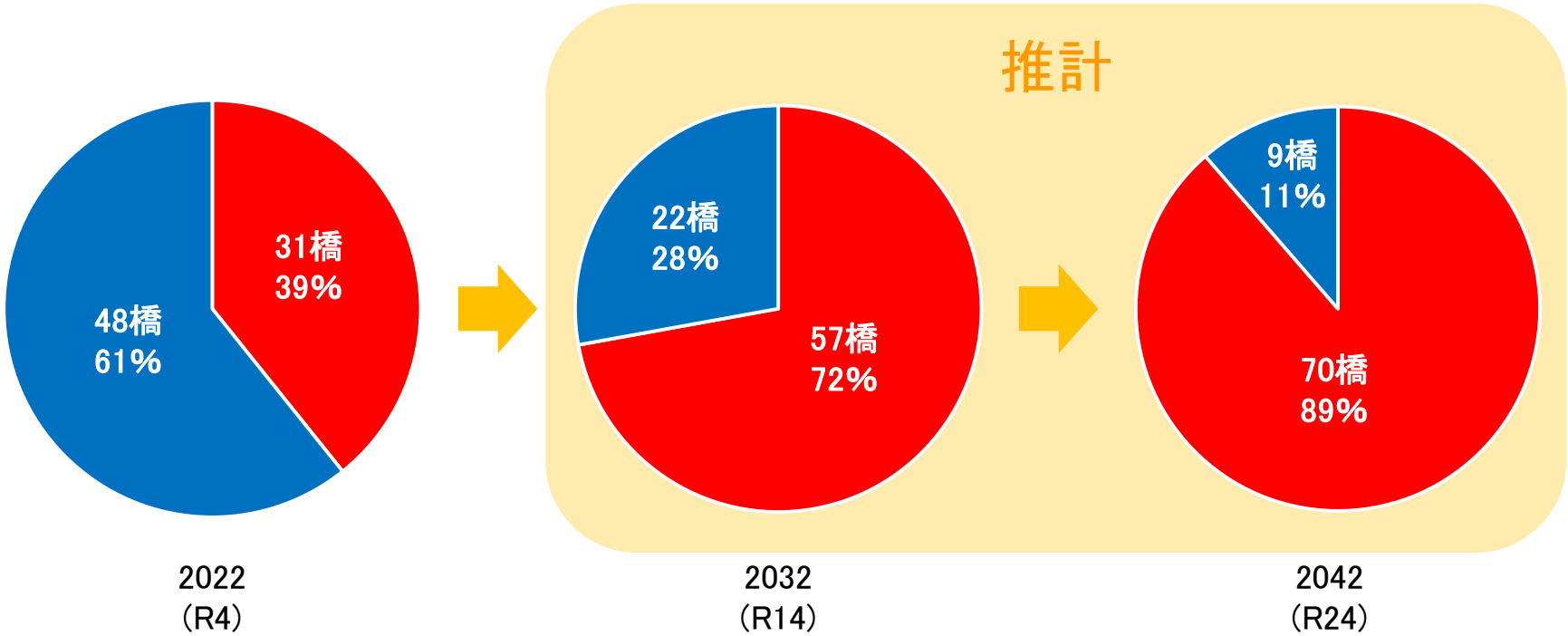
2020年(R2)4月1日現在

15 橋りょうの老朽化割合

出典：西伊豆町作成

推計結果の概要	・建設後50年を超える橋りょうは、2022年から2042年にかけて約2.3倍と急激に増加する。
推定される変化・課題	・人口減少に伴い、町の予算規模が縮小し、公共事業費の大幅な増加が見込めない状況下で、橋りょうのメンテナンスコストは年々増加することが懸念されるため、今後寿命を迎える橋りょう全ての更新費を確保することが困難になることが予想される。

■ 50年未満　■ 50年以上　　※建設年次不明橋梁57橋は除く



参考

各地区出生者数（R1～R5）

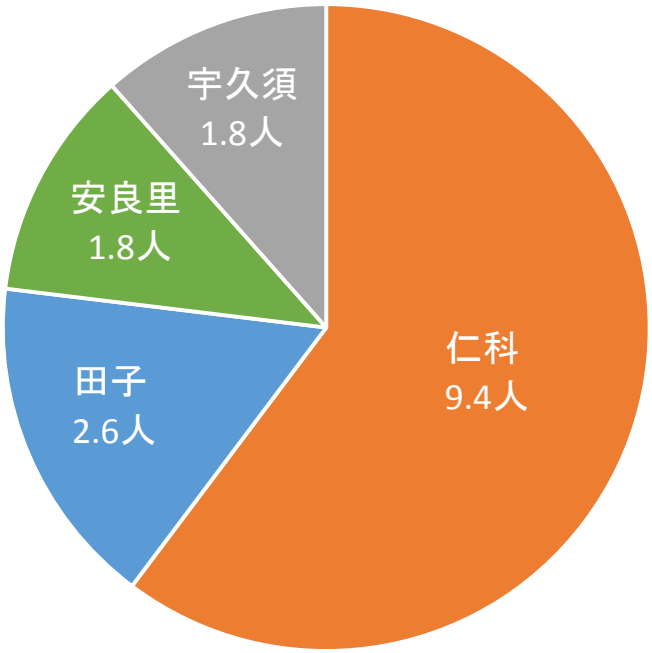
出典：西伊豆町作成

概要	・各地区ともに出生者数が減少傾向にある。
推定される変化・課題	・少子化が進み、子供の生まれない地区が出てくることが想定される。 ・認定こども園や小中学校において、余裕教室が発生し、教育組織体制の変化が想定される。

過去5年の出生者数

地区	R1	R2	R3	R4	R5	平均
仁科	12	12	7	8	8	9.4
田子	3	3	2	2	3	2.6
安良里	3	2	2	1	1	1.8
宇久須	2	3	1	2	1	1.8
小計	20	20	12	13	13	15.6

過去5年の平均出生者数



参考

賀茂郡の将来推計人口

出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

	総人口							2020年の総人口を100とした時の指数						
	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年
静岡県	3,633,202	3,510,509	3,385,506	3,253,591	3,115,777	2,973,451	2,828,823	100.0	96.6	93.2	89.6	85.8	81.8	77.9
下田市	20,183	18,369	16,611	14,954	13,376	11,904	10,574	100.0	91.0	82.3	74.1	66.3	59.0	52.4
東伊豆町	11,488	10,365	9,302	8,281	7,300	6,378	5,575	100.0	90.2	81.0	72.1	63.5	55.5	48.5
河津町	6,870	6,336	5,869	5,439	5,033	4,627	4,244	100.0	92.2	85.4	79.2	73.3	67.4	61.8
南伊豆町	7,877	7,199	6,580	5,986	5,417	4,878	4,410	100.0	91.4	83.5	76.0	68.8	61.9	56.0
松崎町	6,038	5,405	4,841	4,290	3,767	3,286	2,840	100.0	89.5	80.2	71.1	62.4	54.4	47.0
西伊豆町	7,090	6,206	5,403	4,674	3,998	3,392	2,869	100.0	87.5	76.2	65.9	56.4	47.8	40.5